

2012年度森泰吉郎記念研究振興基金研究成果報告書

「中国の腐敗と統治のメカニズム－官僚腐敗を事例に」

2013年2月28日

学籍番号：81225025

政策・メディア研究科 1年

町田 花里奈

1. はじめに

この度は、森泰吉郎記念研究振興基金をいただき、修士論文の執筆に必要な多くの資料を収集することができました。どうもありがとうございました。

当初の研究費の使途としては、香港、江蘇省、安徽省での調査活動を予定していましたが、筆者が2012年春学期に上海復旦大学に留学が決まったことから、江蘇省、安徽省などの上海付近で行える調査活動は、留学の際に行うことにして、いただいた研究費のほとんどは、書籍や資料収集の費用として充当させていただきました。これにより、貴重な情報を収集することができました。

本研究成果報告書では、現状までの研究内容の進捗状況を説明し、今後の課題を整理させていただきます。

2. 研究の課題

本来の修士論文の課題は「中国地方政治における共産党委員会書記の政治的役割」であったが、今回いただいた研究費によって収集した資料をもとに研究を進めた結果、修士論文の課題は「中国の腐敗と統治のメカニズム－官僚腐敗を事例に」にたどり着いた。

3. 研究の背景

体制移行期にある中国社会には腐敗が深く蔓延している。2012年3月11日中華人民共和国最高人民法院の工作報告によると、2011年に腐敗汚職関連で立件された事件は、32,567件44,506人、比較的大きな賄賂案件は18,464件、県級以上の役職に就く国家関係者は、2,524人(含庁局級198人、省部級7人)であった¹⁾。また、国家腐敗予防局の崔海容副局長

1. 中華人民共和国最高人民法院、「最高人民検察院工作報告、2012年3月11日在第十一届

によると、1982年から2011年の30年間に、465人の省・部級指導者を含む420万人の党・政府関係者が規律違反により処分されている。しかし、これは氷山の一角にすぎず²、中国共産党は、腐敗を和諧社会建設³の最大の敵として、その一掃に取り組んできた⁴。

小嶋は、汚職はすでに「社会の潤滑油」と見なされるほどに、幹部の日常的行為と化していると指摘している⁵。

王⁶によれば、改革開放以来における賄賂の多発は、公務員の低賃金と関係している。公務員の基本収入は低く、給料は何度となく引き上げられてきているが、進行しているインフレによって相殺されてきた。公務員は、賄賂を最小限の生活必需品を獲得するための「やむを得ない手段」として賄賂に走るようになった。賄賂は、公務員が背負っている社会的、公的責任とその家庭的、私的責任との現れであって、公務員がそのような矛盾を無理やりに私的に解決しようとした結果であるという⁷。また、1960年代後半に盛んになった開発途上国に対する先進国の開発援助に伴う見解を用いて、賄賂などの腐敗は、単に道徳的または政治的に見て、「悪」と断じるべきではなく、経済的または文化的に見て、経済発展・社会進歩のための「潤滑油」として評価すべきとしている⁸。

田は、歴史的に見る中国の官僚政治の特徴の一つとして、官僚俸給の低さを上げている。本来家族を養うのが精一杯で、使用人を雇う余力などないはずの官僚が、100人の書記や車夫を雇うことができたのは、正規の俸給以外に、地方政府から多額の手当てが支給されていたからであると述べている⁹。

以上から、中国共産党は、指導者の腐敗が、満たせない収入の欲求を自己解決する行為であると考え、腐敗を黙認し、上層部と利益を共有して、国家の安定を図ろうとしているのではないかという一つの仮説が生まれる。本研究では、中国を事例に、腐敗が国家の統治に対して潤滑的な機能を発揮するかどうかについて検証し、中国のような体制移行期の国家に蔓延する腐敗が国家の統治に及ぼす影響について論じていく。

全国人民代表大会第五次会议上」

<http://www.spp.gov.cn/site2006/2012-03-20/0001838388.html>。

2. 華京網 http://epaper.jinghua.cn/html/2012-05/15/content_789303.htm。

3. 中国共産党が2004年に発表した各階層間で調和の取れた社会を目指すというスローガンのこと。

4. 清水美和著『「中国問題」の内幕』（2008年2月、筑摩書房）、122頁。

5. 小島華津子「胡錦濤政権の回顧と中国18全大会の注目点 一政治状況に関して（1）」、東京財団HP、<http://www.tkfd.or.jp/research/project/news.php?id=1040>。

6. 王雲海、一橋大学法学研究科教授。専門は、刑事法学、中国社会と法。

7. 王雲海著『中国社会と腐敗—「腐敗」との向き合い方』（日本評論社、2003年3月）、73—76頁。

8. 王雲海著『中国社会と腐敗』（日本評論社、2003年3月）、110頁。

9. 田曉利「中国における経済体制移行期の政治腐敗—文化的・制度的・経済的側面からのアプローチ」『アジア・アフリカ研究』（アフリカ・アジア研究所、2005年、第45巻第1号）59頁。

4. 研究の目的

体制移行期の中国における腐敗と統治の安定のメカニズムを明らかにする。

5. 研究の意義

中国を事例にした腐敗と統治の関係の検証結果は、中国と同じく体制移行期にある他国の腐敗のメカニズムの研究にも応用することができる。

6. 問題の所在

中国の官僚腐敗は国家の安定にとって潤滑油的な機能を発揮しているのではないか。

7. 今後の課題

本研究の課題は、中国の官僚腐敗が統治の安定に影響を及ぼしていることを証明することである。腐敗と統治の安定をどのように結び付け、どう説明すべきか。これが本研究における今後の課題である。そして、今後の統治の安定をどう証明するかについては、過去の構造による説明では不十分であり、さらなる情報収集が必要である。

8. 今後の予定

2013 年春学期 上海復旦大学で資料収集

2013 年夏休み 中国でのフィールドワーク

2013 年秋学期 修士論文執筆、完成

2013 年春学期は上海復旦大学に留学するため、この期間を利用して、これまで収集した資料、または事例の不足部分を補うための資料の収集活動を行う。2013 年秋学期の論文執筆に向けて着々と準備を進める。

9. 参考文献

日本語書籍

- ・ 王雲海著『中国社会と腐敗－「腐敗」との向き合い方』（日本評論社、2003 年 3 月）。
- ・ 蒲島郁夫著『政治参加』（東京大学出版会、2003 年）。
- ・ 岸本美緒著『風俗と時代観－明清史論集 I』（2012 年 4 月 20 日、研文出版）。
- ・ 呉軍華著『静かなる革命』（日本経済新聞出版社、2008 年 8 月）。
- ・ 佐々木智弘編『現代中国の政治的安定』（アジア経済研究所、2009 年 3 月）。

- ・清水美和著『「中国問題」の内幕』（薩摩書房、2008年2月）。
- ・清水美和著『「中国問題」の核心』（薩摩書房、2009年9月）。
- ・スーザンL. シャーク著、徳川家広訳『中国 危うい超大国』（NHK出版、2008年3月）。
- ・中兼和津次著『体制移行の政治経済学』（名古屋大学出版会、2010年3月）。

日本語論文

- ・佐々木 智弘「中国共産党の一党支配の変容と統治安定（特集：世界政治の中の中国）」『現代中国研究』（中国現代史研究会、2007年3月23日）、35-44頁。

英文書籍

- ・Teresa Wright, *Accepting Authoritarianism: State-Society Relations in China's Reform Era*, Stanford Univ Pr, 2010 March.

中国書籍

- ・中央紀委研究室編「党風廉政建設和紀檢監察工作 資料庫(1995年、1996年度)」（中国方正出版社、1997年12月）。
- ・中央紀委紀檢監察研究所編「中国共産党反腐倡廉文献選編」（中央文献出版社、2002年2月）。

10. おわりに

この度の資料収集は、慶應義塾大学研究支援センターの皆様のご多大なるご協力のもと、森泰吉郎記念研究振興基金をいただけたことによって成し遂げることができました。心から御礼申し上げます。本当にどうもありがとうございました。今回の資料収集を通して、香港の研究機関や天津市にある大学の教授の方々とはよい関係を構築することができ、今後の調査活動でも大いに役立つことができると思います。貴重な経験を提供していただき、心から感謝申し上げます。